

わ  
っ  
WAKKA

鳥取市のまちなかを  
応援する情報誌

2025  
SPRING  
vol.  
55



特集 人のつながり、気持ちの循環

FREE  
ご自由にお取り  
ください

# 人のつながり、気持ちの循環



かつて飲食店街だった袋川近くの初音通り。今は住宅が並び通りになったが、そこに空き家をリノベーションした一軒のお店がある。その名も「不真面目商店」。なんともユニークな名前だが、大学生が店長となつて真面目に営業中。「みんながやりたいことを持ち寄ろう」と地域の人たちが出店する棚が並び、週2回の朝コーヒーの時間には子供からお年寄りまで幅広い人たちが集まる。オープンしてもうすぐ3年を迎える今、新たなコミュニティスペースとして成長しているようだ。

## 大学生たちが運営する商店

「おはようございます。よかったです。コーヒー淹れますので、奥に上がってください」

出迎えてくれたのは、店長の小谷峻一さん。鳥取大学地域学部1年。火・金曜日の朝コーヒーはいつもにぎわっていて、この日は雪が降っていたにも関わらず、十人ほどが朝ごはんを食べながら談笑していた。

もともと鳥取市中心市街地の遊休不動産活用を考える「まちづくりワーケーションプログラム」(まちワケ)の対象物件で、元果物屋さんだった



空き家を改装。参加者の一人である東京の大学生が店長に名乗りをあげて、インターンとして鳥取にやってきて2022年8月に開店。現在は小谷さんと永石眺也さん。鳥取環境大学経営学部1年。店長を務めている。「住宅街では真面目な商売は難しいのではと助言を受け、逆転で『不真面目商店』という名前をつけた。ふざけるとか適当という意味ではなく、商売よりもまずまちの人たちがどう使いたいかを考え、そこに振り切ってやってきました」と、まちワケの主催者である株式会社まるにわの中川玄洋さん。プログラムの中で、地域の人たちのやりたいことが集結する場所にしようと貸し棚が考案された。ハンドメイド作品、漫画や本などがずらりと棚に並び、趣味や特技を披露し、販売するきっかけになっている。



## 「やってみたい」ができる場所

「こういう場所が必要なんです」と話すのは、棚オーナーで、27年間「こひつじ文庫」という活動をしている山内英子さん。いつの時代も変わらず愛される絵本を棚に並べ、定期的に紙芝居も行なっている。

「いつまでも残る『いい絵本』を手にとって読んで欲しいと棚に置かせてもらっています。ここにはものづくりをしてささやかに売ってみたいという思いを持った人、技のある人が集まっています。お互いの情報交換もでき、小さな経済の渦巻きを作っていると思います。『大人のたまり場』にもなっていますよ」

「棚は自分の好きや趣味を表現でき、それを共有してつながれる場所」と小谷さん。棚オーナー同士が、不真面目商店でハンドメイド作品などの販



売をしたり、一緒に市内のイベントに飛び出したりと交流が生まれている。棚を通じた刺激や学びを与え合う関係性も魅力のようだ。

誰かの挑戦や人と関わりたいという気持ちが交差し、人のつながりが生まれるコミュニティスペースは、若者にとっても貴重な場所だ。小谷さんは鳥取市出身。高校2年生の頃から不真面目商店に通い始めた。

「友達から聞いて来ていい場所だかなと思って。高校生が実家で作っている野菜を売ってたら面白いよねと初代店長と盛り上がり、やり始めました。まちづくりに興味はあったけど、実際に地域に関わるのは初めてで、ここは活動の原点です。自分が主体的に動いてみて、人のあつたかさとか数字で測れない鳥取の良さに気付いたなあと思っています」

福岡県出身の永石さんも、引き寄せられるように不真面目商店に来た。

「大学で鳥取に来て、空き家を使って自分で何かできたら面白いなと興味が湧いたのがきっかけです。ここがあるからまちなかに来るようになりました。散策してみると、まちに出てみないと分からないことがたくさん得られます」その輪が広がり、大学生ら10人ほどが交代で店番をして運営している。

## 人が寄り合う場

最近の朝コーヒーには、豪華な朝ごはんが並び、聞けば近所に住むシニア世代の女性らが手作りし、持参してきてくれるのだとか。

「最初はコーヒーだけじゃお腹が減るだろうっておばあちゃんたちがパンを持ってきてくれて、その次にはサラダが加わり、おかずが増えていったんです。朝ごはんと呼ぶには豪華すぎるところになっていきます」と、小谷さん。大学生たちは実家や旅のお土産を持ってきたり、参加者の持ち寄りがあつたりと、心がつながる場となっているようだ。

その中で、半年ほど前から来ているという80代の女性は、孫を可愛がるような目で、嬉しそうに笑っていた。「こうしてみんなが美味しいって



言ってくれるでしょう。そうしたらまた作りたくなるし、自分が楽しんでるだけ。今だんだん空き家も増えて老人ばかりになっていくから、若い人たちが話したり笑い合えるこんな場があると嬉しいですよ」

週末は、子供たちがやってきては一緒に遊び、宿題を教えることもある。「これからは中高生が空いた時間に勉強できる場所も作ってみたい」と永石さん。つながりが薄くなりつつある時代に、家でも学校でもなく、地域の中で多様な人と関わる機会があることは、若者世代にも地元の良さを知ってもらうことにつながるだろう。

「ここに来れば誰かいて、安心する。鳥取での実家みたいですよ」と永石さんが言えば、「せまくて深いコミュニティが特徴。みんなが不真面目家族」という感じ」と小谷さん。「世代を超えて、人の気持ちが循環する場所」と山内さんも言う。

今日も不真面目商店からは、いろんな笑い声が聞こえてくる。

不真面目商店  
鳥取市元町205

オープン情報は  
Instagramで  
更新しています!





作家さんの目線で鳥取のまちで見つけた『好き』を、作品でご案内  
 芳心寺さんとは今回ご縁をいただき、現地  
 でお話をお聞きすることができました。  
 日蓮宗・芳心寺は、1544年(室町時  
 代)に岡山で開かれ、鳥取に移ったのは  
 1632年(江戸時代)だそうです。もう  
 400年近くも、鳥取の移り変わりを見守  
 っているんですね。  
 これからの新しい取り組みとして、『瞑想  
 体験』があります。お香をたいた、いつもとは  
 違うお寺という空間で「今という時間」を感じ  
 る。オンライン生活では、嫌でも必要のない  
 情報を浴びてしまいます。私は、「瞑想」と  
 いうオフラインの時間をぜひ体験してみたい  
 です。芳心寺という場所が、デジタルデトックス  
 や出会いの場として、若い世代も足を運びやす  
 い「新たな場所」になっていくと思えました！  
 \* 鹿野街道沿いに、赤い店舗テントに書かれ  
 た「ラスタ」の文字が見えます。

Galleryそら presents

わたしの  
 好きな  
 まちの



作家さんの目線で鳥取のまちで見つけた『好き』を、作品でご案内



初めて足を運んだのは、友人に誘われ、一昨年の4月、  
 80年代から活躍しているDJ・藤井悟さんが「連想」  
 という本をリリースし、ツアーの会場がラスタだったの  
 でした。「鳥取にこんなマニアックな場所があるんだ！」  
 とワクワクしたのを覚えています。

現オーナーのお母さまが異国の地で仕入れた各民族の  
 布やジーンズなどの知る人ぞ知る貴重なファッション  
 アイテムや、アクセサリー、お香、雑貨が数え切れない  
 ほどあります。行くたびに温かく迎えてくださるオー  
 ナーご夫婦と、看板犬の二匹のワンちゃんが作り出す、  
 楽しくて唯一無二の空間です。ぜひ、お気に入りを探しに訪れてみてください！

文・イラスト TROPICAL ARTS

文・イラスト TROPICAL ARTS  
 昨年の秋、ギャラリーそらでのグループ展に出展していた  
 TROPICAL ARTSさん。旅好きな彼女らしい異国の雰囲気漂う  
 イラストとセンスある写真の展示が異彩を放っていました。  
 山陰三ツ星マーケットや県内のイベントで彼女の明るく元気なイラストを見か  
 けられたことがあるかもしれません。フリーランスのデザイナー・イラスト  
 レーターとして独立したばかりのフレッシュな彼女。現在は念願の絵本作り  
 に挑戦しています。

TROPICAL ARTSさんは、今年8月  
 にギャラリーそらの企画展「Do! Dot!」  
 に出品予定。50人超の出品者が集ま  
 る人気の企画展です。お楽しみに♪

Galleryそら / gallery shop SORA  
 鳥取市栄町658-3  
 TEL:0857-29-1622

ギャラリーそら



Galleryそら オーナー 安井敏恵

# 「まちなかの取り組みをご紹介します」 とっとりまちづくり



## 「まちづくりワーケーションプログラム(通称:まちワケ)」

### 最終発表会を開催しました!

#### 「まちワケ」とは?

都市部人材と地元人材で、空き家・空き店舗の利活用によるまちづくりを考える取組です。  
 令和6年度は『まちなかの遊休不動産×企業課題』をテーマに、地元企業が抱える課題を空き家・空き店舗の活用によって解決へ  
 結びつけるプログラムを開催しました。  
 テーマごとに2チームに分かれて考えた事業提案について、令和7年2月23日(日)に最終発表会を行いました。

#### 各チームの取組

##### UnitA テーマ: お母さん牛ブランド「夏日牛」の地域での知名度拡大と販路拡大

###### 提案概要:

- ① 精肉加工作業を自分で実施
- ② イベント出店によるPR
- ③ 遊休不動産を活用した小売・飲食
- ④ 地元飲食店への卸売の4つの取組をスモールスタートで段階的に実施する。

###### 参加者インタビュー:



沖周二郎さん  
 (都市部から参加)

私は鳥取市出身で、現在は東京で会社員をしています。学生の頃から地域の活性化に興味があり、このたびの企画に参加させていただきました。約3ヶ月間、県内外在住の皆さんと自由闊達な議論ができたことは、非常に貴重な経験となりました。この企画を通じて、「鳥取の賑わいを後押ししたい」と思える人が増えていくといいなと感じました。私も県外から、自分のできることにこれからも取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

##### UnitB テーマ: 社会的孤立の解消に向けた地域連携パートナー養成による“居場所と出番”づくり

###### 提案概要:

テーマ企業所有物件の未利用空間を地域連携パートナー養成・増加の中核拠点とし、養成講座やマルシェなどの実践場所として活用する。

###### 参加者インタビュー:



渡邊梨乃さん  
 (地元から参加)

私は来年の大学受験に向けてこのプロジェクトに申し込みました。経験のために申し込んだプロジェクトでしたが、私が想像していた以上に楽しく、高校生だけの力じゃ実現できない「やってみよう!」が叶ったプロジェクトでした。身近にある社会的な課題や、それをどう解決していくかをチームで話し合っていく楽しさなど、たくさんの事が学べるプロジェクトでした! このご縁を今後も大切にして、自分にできるお手伝いを続けていけたらと思っています。

## 鳥取駅周辺再整備に係る「若者・子育て世代ワークショップ」結果報告会

9月・11月に学生や若手社会人・子育て世代を対象にワークショップを実施しました。  
 令和7年2月12日(水)に、鳥取市役所本庁舎7階展望スペースにて結果報告会を開催し、  
 ワークショップで出た意見や先進地視察で得た知見をとりまとめ、市長に対して「求める鳥取  
 駅周辺の新しいカタチ」について報告・提案いただきました。  
 今回は対象を学生や若手社会人・子育て世代としましたが、幅広く市民の皆さまのご意見  
 を取り入れた鳥取駅周辺再整備となるよう、引き続きワークショップの開催などの機会を設け、  
 皆さまの思う「未来のカタチ」に沿った再整備となるよう取り組んでいきます。



◎お問い合わせ先: 鳥取市 都市整備部 まちなか未来創造課 鳥取市幸町71鳥取市役所本庁舎5F 53番窓口  
 TEL:0857-30-8331 FAX:0857-20-3953 E-mail:machinakamirai@city.tottori.lg.jp

